

基本構想の答申書のまとめ方について

基本構想の答申書については、総括部会において今回を含む全3回の議論を経て、次のイメージのとおり総括部会における基本構想の答申書としてまとめたい。

基本構想の答申書 (総括部会) イメージ

平成 29 年 6 月 日

那覇市総合計画審議会
会 長 仲地 博 様

那覇市総合計画審議会
総括部会長 仲地 博

第 5 次那覇市総合計画「基本構想」について (答申)

平成 29 年 2 月 3 日に那覇市長より諮問のあった第 5 次那覇市総合計画「基本構想」について諮問案を審議した結果、別添のとおり答申します。

別添 1 基本構想 (諮問案) への意見

- 1 まちづくりの将来像について
 - 2 市政運営の姿勢について
 - 3 めざすまちの姿について
- (1) 自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯について
.....【総括部会で取り上げるべき意見を掲載】.....

別添 2 基本構想 (総括部会)

.....【諮問案をベースに総括部会案を策定】.....

●第4次那覇市総合計画「基本構想および基本計画」について（諮問）

諮問第 1 号 平成19年 7月26日
那覇市総合計画審議会会長 様
那覇市長 翁長雄志
第4次那覇市総合計画「基本構想および基本計画」 について（諮問）
第4次那覇市総合計画を策定するにあたり、那覇市総合計画審議会規則第2条の規定により、第4次那覇市総合計画（基本構想および基本計画）について諮問します。
記
（諮問事項）
1 第4次那覇市総合計画「基本構想」について
2 第4次那覇市総合計画「基本計画」について
（答申時期の目安）
1 平成19年9月頃
2 平成19年12月頃

●第4次那覇市総合計画「基本構想」について（答申）—抄—

平成19年 9月26日
那覇市長 翁長雄志 様
那覇市総合計画審議会 会長 富川盛武
第4次那覇市総合計画「基本構想」について（答申）
平成19年7月26日に諮問のあった第4次那覇市総合計画（基本構想）について諮問案を審議した結果、別添のとおり答申します。
（別添）
第4次那覇市総合計画（基本構想）について（答申）

【審議会意見】

1. まちづくりの基本理念について

基本構想は、市民の日常生活をゆたかにするため、まちづくりの目標を定めるものであるから、その根底となる基本理念は、これからの10年、那覇市のまちづくりにインパクトを与えるもの、市民の心に響く象徴的な言葉を掲げることが重要である。

そのことから、那覇市の将来を支える「子ども」に視点を置いたまちづくりは特に重要であり、一人ひとりの幸福と子どもが大切にされている社会の象徴として、市民も行政も「子どもの笑顔が輝くまち」を創るというメッセージを強調する必要がある。

また、市民と行政との協働が、暗に厳しい地方財政運営の中で必要性が語られることを慎み、市民も主体性と責任を持ち、行政との協力関係で新しい公共性を見出していくという「協働」の捉え方に留意されたい。

2. 都市像について

(1) 自治・協働・平和について

社会的な格差が拡大し、それに起因する社会的な集団から個人の排除や孤立化の進行が懸念される中、従来の地縁・血縁組織の変容著しい那覇市のような都市部において「市民の間の心地よいつながり」づくりは、非常に重要な課題である。

これまで、NPO活動支援など市民の社会参加の機会を提供してきた那覇市にあっては、市民と行政がともに学び、自治と協働のルールを確立して、さらに、市民活動や市民と行政との協働の裾野を拡げていくことにつとめられたい。

(2) 保健・福祉・医療について

少子高齢社会において、元気に長生きできる社会の構築は、重要なテーマであり、近年、沖縄県の長寿が危機的な状況であることを勘案すると、「生きがいをもって支えあう健康都市」という目標は、時宜を得ている。

また、地域力を活かすということは、人と人とのつながりにおける信頼関係やネットワークなどのソーシャルキャピタル（社会関係資本）を豊かにするものと解する。同時に、市民の誰もが安心して健やかに暮らすためには、行政の責任においてセーフティーネットを充実させることも重要である。コミュニティ活動やネットワークづくりを応援して、行政による公助とともに、市民の力を発揮できる支えあいの新しい仕組みづくりの充実につとめられたい。

さらに、基本理念の「子どもの笑顔が輝く」というテーマに即し、地域力の源となる家庭環境づくりを支援するためには、安心して子を産み育てるための保健の普及や生活上の悩みを相談できる仕組みづくりなどが重要である。

(3) 環境について

環境は、ごみ減量、環境ISO(ISO14001)の取得など、那覇市に先進的な取り組み実績のある分野であり、これからも環境政策を積極的にすすめていく姿勢を明示することが必要である。

したがって、自然の保全や資源循環型の社会づくり、環境共生都市をめざすことを明確に宣言すること、子どもたちの未来のためにも、ごみの減量などにくわえて、ガソリンの消費、排ガス、騒音などの削減に関しては、日本のみならず環境対策先進諸国で取り組まれている自動車利用の抑制と路面電車で象徴される新しい公共交通を含む交通システムの整備を促進することが重要である。

(4) 子ども・教育・文化について

未来を担う子どもたちの育成環境づくりに大人が取り組む姿を強調すべきであり、この分野の都市像においては、まちづくりの基本理念に掲げた「子どもの笑顔」を再掲して強調し、ゆたかな学びのある文化都市を目指されたい。

また、子どもが健やかに育つ、あるいは生きる力を育むためには、自分自身を大切にすることを育てるとともに、子どもたちを守る権利擁護の視点も重要である。

多様な文化と価値観を内包する「ゆたかな文化都市」づくりが、大きな目標であることに留意されたい。

(5) 産業・観光・情報について

他都市のどこにもない魅力が那覇には詰まっている。したがって、那覇市の産業振興の中核をなす観光の課題は、市民自らが、まちの魅力を誇りに思い語ることであり、その魅力を高め活かすための行動をおこすことである。「人もまちも活いき」という都市像が内包する姿として言及することが好ましい。

また、観光を軸として環境や独特の文化、健康づくりなどが関連産業として連携し、王国時代から連綿と受け継がれた商都として発展していく姿、近年の成長分野のひとつである情報関連産業による産業振興の方向性を明示されたい。

さらに、これから発展していく那覇市の姿として、日本の「南」という視点から脱却し、アジアに視点を拡げるような展望を願う。

(6) 防災・都市基盤について

「亜熱帯庭園都市」というイメージは那覇市の特徴的な姿、風格のある都市という他の分野をも包

含するような都市像であり、防災・都市基盤、都市景観の整備においては、ゆたかな人の暮らしと、自然や歴史的なまちなみが調和した緑ゆたかな美しいまちを目指すことにつとめられたい。

さらに、これからの都市整備においては、交通利便性の向上や渋滞対策だけでなく、福祉や環境の観点からも、路面電車などに象徴される新しい公共交通導入の検討をすすめるとともに、モノレールやコミュニティバス、自転車などの利用などを組み合わせた交通システムの構築が必要である。

また、市民会議の意見として提案された「歩いて楽しい」というフレーズが魅力あるまちなみづくりを喚起するキーワードになるように留意されたい。

3. 行政運営の姿勢・視点について

新しい公共の時代に向けて、「市民との協働によるまちづくり」をすすめるにあたり、行政の信頼性をどう高めていくのか、行政の各分野が共通して留意する旨市民に宣言する部分として簡潔にまとめるものとする。

政策や施策の策定、事業の実施過程のみならず、評価を含む計画・実施・評価・改善のプロセスに市民の参画が必要であり、そのためには、市民も行政も、ともに協働のあり方を学ぶという過程が必要である。

また、市民サービスの向上については、表層に現れる市民の要求の満足度を高めるということだけではなく、行政は市民の視点に立って、表層に現れない社会的なニーズを把握する義務を負うことも忘れてはならない。

●第4次那覇市総合計画「基本計画」について（答申）—抄—

平成20年 1月17日
那覇市長 翁長雄志 様
那覇市総合計画審議会 会長 富川盛武
第4次那覇市総合計画「基本計画」について（答申）
平成19年7月26日に諮問のあった第4次那覇市総合計画「基本計画」について、当審議会において審議した結果を別添のとおり答申します。
（別添）
答申 第4次那覇市総合計画「基本計画」について